

こんなモノを運ばせて頂きました！

かやぶき屋根に使用する”枯れすすき“を京都まで運ばせて頂きました！

世の中に役立つ自然の資源を再利用！

広大な阿蘇の原野に生息する枯れすすきが、京都古民家のかやぶき屋根として活用するため、熊本から京都へ運ばせて頂きました。かやぶき屋根は大体20年～30年ごとに葺き替えが行われますが、都市化がすすみ現在は栽培したすすきを使用することもあります。もともと燃やしてしまうはずだった阿蘇のすすきが京都で新たに活用され、日本の里山の象徴のひとつとして再利用されることは素晴らしいと思います。資源を無駄にしない、まさにエコな取り組みです！

阿蘇の原野 枯れすすき



阿蘇の原野の枯れすすきは、すすきが資源となり、大量に京都へ運ばれ、古民家のかやぶき屋根の材料として活用されている。牧野関係者は、田舎暮らしを求めて阿蘇のすすきが珍重され、今年1月下旬から刈り取りは開始。14日は高森町上色見の原野で約10人が作業に臨んだ。現場は傾斜地がほとんど、斜面に足を踏ん張り、背丈ほどのすすきを数々に刈って束ね上げる作業が続く。今季は約40人を京都市のかやぶき職人らに雇う予定という。

県牧野組合の村山助雄組合長(58)は「燃やしてしまうすすきなので、買い取りはありがたい。刈り取り後は野焼きの火もおとなしくなり、作業がやりやすかった」と歓迎。阿蘇グリーンストックの山内康二専務理事も「大掛かりな試みで、今後に期待が持てる。すすきの活用が広がることは、草原を維持していく上で意味が大きい」と話している。(三笠山雄)

ローカル ワイド 県北

かやぶき屋根に活用

京都へ出荷 草原維持に一役

阿蘇の原野の枯れすすきは、すすきが資源となり、大量に京都へ運ばれ、古民家のかやぶき屋根の材料として活用されている。牧野関係者は、田舎暮らしを求めて阿蘇のすすきが珍重され、今年1月下旬から刈り取りは開始。14日は高森町上色見の原野で約10人が作業に臨んだ。現場は傾斜地がほとんど、斜面に足を踏ん張り、背丈ほどのすすきを数々に刈って束ね上げる作業が続く。今季は約40人を京都市のかやぶき職人らに雇う予定という。

県牧野組合の村山助雄組合長(58)は「燃やしてしまうすすきなので、買い取りはありがたい。刈り取り後は野焼きの火もおとなしくなり、作業がやりやすかった」と歓迎。阿蘇グリーンストックの山内康二専務理事も「大掛かりな試みで、今後に期待が持てる。すすきの活用が広がることは、草原を維持していく上で意味が大きい」と話している。(三笠山雄)

原野の斜面に生える枯れすすきを刈り取り、作業員が束ねたすすきは京都に運ばれ、かやぶき屋根の材料になる。高森町上色見。

五名総局	TEL 0968(73)3078
FAX 0968(73)3079	
山鹿支局	TEL 0968(44)2433
FAX 0968(44)3433	
菊池支局	TEL 0968(25)2545
FAX 0968(24)5855	
大津支局	TEL 096(293)7470
FAX 096(293)9343	
荒尾支局	TEL 0968(63)0062
FAX 0968(63)0189	
南関支局	TEL 0968(63)0953
FAX 0968(63)3240	
阿蘇総局	TEL 0967(22)0142
FAX 0967(22)4001	
高森支局	



■すすきとは？

イネ科すすき属の多年草植物で、萱(かや)とも言われる。野原に生息し、夏から秋にかけて茎の先端に長さ20～30cm程度の十数本に分かれた花穂をつける。花穂は赤っぽい色をしているが、種子(正しくは穎果・えいか)には白い毛が生えて、穂全体が白っぽくなる。種子は風によって飛ぶことができる。

